

《第1節》

【節】英語版テキスト p.47 上段。

anyacchreyo'nyadutaiva preyaste ubhe nānārthe puruṣaṁ sinītaḥ ;
アンニヤッチレーヨーンニヤドウタイヴァ プレーヤステー ウベー
ナーナルター プルシャム シニータハ ;
tayoh śreya ādadānasya sādhu bhavati hīyate'rthādya u preyo vṛṇīte.
タヨーホ シュレーヤ アーダダーナッスヤ サードウ バヴァティ
ヒーヤテールターツディヤ ウ プレーヨー ヴリニーター

【単語】英語版テキスト p.47 中段。

- ＜アンニヤッチレーヨーンニヤドウタイヴァ
＝アンニヤット＋シュレーヤハ＋アンニヤット＋ウタ＋エーヴァ＞
- ・ アンニヤット (anyat : 違う、別の)
 - ・ シュレーヤハ (śreyaḥ : 善、幸福) [= good, well-being]
 - ・ アンニヤット エーヴァ (anyat eva : 全く違う)
 - ・ ウタ (uta : また、そして)

 - ・ プレーヤハ (preyaḥ : 快樂、快いもの) [= pleasure]
 - ・ テー ウベー (te ubhe : その二つ [シュレーヤとプレーヤ] は)
 - ・ ナーナー アルター (nānā- arthe : 別々の)
 - ・ プルシャム (puruṣam : 人)
 - ・ シニータハ (sinītaḥ : 束縛する)

 - ・ タヨーホ (tayoh : それら二つ [シュレーヤとプレーヤ] のあいだで)
 - ・ アーダダーナッスヤ (ādadānasya : それを選んだ人は)
 - ・ サードウ バヴァティ (sādhu bhavati : 良い結果を得る、成長する、進む)
- ＜ヒーヤテールターツディヤ ＝ ヒーヤター＋アルタート＋ヤハ＞
- ・ ヒーヤター (hīyate : それる、はずれる、墮落する)
 - ・ アルタート (arthāt : 目的から)
 - ・ ヤハ (yaḥ : 別の人は)

 - ・ ウ プレーヤハ ヴリニーター (u preyaḥ vṛṇīte : 快樂だけを選ぶと)

【訳】 英語版テキスト p.47 下段。

[死神ヤマは言った] シュレーヤ（幸福、善）とプレーヤ（快樂）は全く異なるものである。どちらも束縛だが、目標が異なり、束縛の意味も異なる。シュレーヤを選ぶ者は良い結果を得、プレーヤを選ぶ者は人生の目的を達成できない。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.49、11 行目。

[死の王] 善と快樂とは異なる。それら二つは、目的は異なるが、どちらも行為を促す。善を選ぶ者たちは幸いである。快樂を選ぶ者たちは最終的な目標を見失う。

≪第2節≫

【節】英語版テキスト p.49 中段。

śreyaśca preyaśca manuṣyametaṣtau samparītya vivinakti dhīraḥ ;
シュレーヤシュチャ プレーヤシュチャ マヌッシャメータスタウ
サムパリーティヤ ヴィヴィナクティ ディーラハ ;
śreyo hi dhīro'bhi preyaso vṛṇīte preyo mando yogakṣemād vṛṇīte.
シュレーヨー ヒ ディーロービ プレーヤソー ヴリニーテー
プレーヨー マンドー ヨーガクシェーマード ヴリニーテー

【単語】英語版テキスト p.49 下段。

- ・ シュレーヤハ チャ プレーヤハ チャ
（śreyaḥ ca preyaḥ ca : 善（幸福）と快樂と） [世俗と靈性と]
- ・ マヌッシャム (manuṣyam : 人)
- ・ エータハ (etaḥ : 一緒に来る) [= come together]
- ・ タウ (tau : それ)
- ・ サムパリーティヤ (samparītya : よく分析して)
- ・ ヴィヴィナクティ (vivinakti : 識別する) ;
- ・ ディーラハ (dhīraḥ : 賢い人は)

- ・ シュレーヤハ ヒ (śreyaḥ-hi : 善いものだけ)
- ・ アビ ヴリニーテー (abhi- vṛṇīte : 好む)
- ・ プレーヤサハ (preyaśaḥ : 快樂から)
- ・ マンダハ (mandāḥ : 賢くない [本当の理解がない] 人は)
- ・ ヨーガ クシェーマート (yoga-kṣemāt : 追加と保持)
[物質的なものを欲しがること、今まであったものを取っておきたいと思う事]
- ・ ヴリニーテー (vṛṇīte : 好む)

【訳】英語版テキスト p.49 下段。

人の前に、シュレーヤ（善、幸福）とプレーヤ（快樂）は一緒にあられる。賢い人は、それぞれのメリット・デメリットを識別して、シュレーヤを好む。だがその識別ができない人は、肉体の快適さの維持やそれをさらに増やすことに関心があるので、プレーヤを選ぶ。

【訳】協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.49、14 行目。

善も快樂も、人々の前にあられる。賢者は、双方を吟味して、一方を他方から区別する。賢者は快樂よりも善を好む。愚者は、肉体の欲望に駆りたてられて、善よりも快樂を好む。

《第3節》

【節】英語版テキスト p.50 下段。

sa tvam̐ priyānpriyarūpām̐śca kāmānabhidhyāyannaciketo'tyasrākṣīḥ ;
サ トウヴァム プリヤーンプリヤルーパームシュチャ
カーマーナビッディヤーヤンナチケートーッティヤスラークシーヒ ;
naitām̐ sṛṅkām̐ vittamayīmavāpto yasyām̐ majjanti bahavo manuṣyāḥ.
ナイターム スリンカーム ヴィッタマイーマヴァープトー ヤッスヤーム
マッジャンティ バハヴァー マヌッシャーハ

【単語】英語版テキスト p.51 中段。

- ・サハ トウヴァム (saḥ tvam : あなた [=ナチケーター] は)

＜プリヤーンプリヤルーパームシュチャ
＝プリヤーン＋プリヤルーパーン＋チャ＞

- ・プリヤーン (priyān : 近しく愛しい人)
- ・プリヤ ルーパーン (priya rūpān : 美しい)
- ・チャ (ca : ～と)

＜カーマーナビッディヤーヤンナチケートーッティヤスラークシーヒ
＝カーマーン＋アビッディヤーヤン＋ナチケータハ＋アッティヤスラ
ークシーヒ＞

- ・カーマーン (kāmān : 欲望の対象)
- ・アビ ディヤーヤン (abhi-dhyāyan : 識別して、内省して)
- ・ナチケータハ (naciketah : おお、ナチケーターよ)
- ・アッティアスラークシーヒ (atyasrākṣīḥ : それらすべてを拒絶した)
[(ナチケーターは) 死神ヤマが見せた数々の誘惑すべてを拒絶した] [過去形]

- ・エータム (etām : この)
- ・スリンカーム (sṛṅkām : 首飾り) [世俗的な喜びの生活、世俗的な人生]
＜ヴィッタマイーマヴァープトー = ヴィッタマイーム＋アヴァープタハ＞
- ・ヴィッタマイーム (vittamayīm : 富で得られる喜び) [vittam=富]
- ・ナ アヴァープタハ (na avāptah : 選んでいない、貰わない、放棄した)
- ・ヤッスヤーム (yasyām : 関係代名詞) [= in which]
- ・マッジャンティ (majjanti : おぼれる、ぬかるみにはまる)
- ・バハヴァーハ (bahavaḥ : 多くの)
- ・マヌッシャーハ (manuṣyāḥ : 人々)

【訳】 英語版テキスト p.51 下段。

ナチケーターよ、あなたは私の度重なる誘惑をすべて拒絶した。近しく愛しい人も、快樂も、あなたを誘惑することはなかった。あなたは世俗的なものはすべて無駄であると理解した賢い御方である。あなたはすべてを放棄した。だが多くの者は、世俗的な生活が楽しいと思い、それに浸りきっている。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.50、2行目。

ナチケーターよ、汝は感覚器官を喜ばせる肉体の欲望を達観して、それらすべてを放棄した。多くの人がのたうちまわるぬかるみの道に背を向けた。

《第4節》

【節】英語版テキスト p.52 下段。

dūramete viparīte viṣūcī avidyā yā ca vidyeti jñātā ;
ドゥーラメーテー ヴィパリーテー ヴィシューチャー アヴィッディヤー
ヤー チャ ヴィッディエーティ ギャーター ;
vidyābhīpsinam naciketasam manye na tvā kāmā bahavo'lolupanta.
ヴィッディヤービープシナム ナチケーターサム マンニエー ナ トウヴァー
カーマー バハヴォーロールパンタ

【単語】英語版テキスト p.53 上段。

- ・ドゥーラム (dūram : 離れて)
- ・エーテー (ete : これら二つの)
- ・ヴィパリーテー (viparīte : 別々の、反対の)
- ・ヴィシューチャー (viṣūcī : 結果が出る) [反対の結果が出る]
- ・ヤー アヴィッディヤー (yā avidyā : その無知)
[すなわち快樂 (感覚の喜び) をもたらす世俗的な知識]
- ・ヴィッディヤー チャ (vidyā ca : ~と知識) [すなわち完全をもたらす知識]
- ・イティ (iti : このように)
- ・ギャーター (jñātā : 知れわたっている)

- ・ヴィッディヤー アビープシナム マンニエー (vidyā-abhīpsinam manye : 私 [ヤマ] はあなた [ナチケーター] が靈的知識を熱望していると知る)
- ・ナ トウヴァー (na tvā : あなたは~しない)
- ・カーマーハ (kāmāḥ : 魅惑的なもの) [世俗的な楽しいもの]
- ・バハヴァハ (bahavaḥ : 多くの)
- ・アロールパンタ (alolupanta : 誘惑した) [過去形]

【訳】英語版テキスト p.53 中段。

世俗の知識と靈性の知識はまったくかけ離れたもので、その目標もまったく異なっている。ナチケーターよ、私はよく分かった、あなたが靈性の知識を熱望していると。私はあらゆる魅惑的なものであなたを誘惑したが、あなたはそれらにほんの少しも興味を示さなかった。

【訳】協会書籍『ウパニシャド 改訂版』p.50、4行目。

無知と知識とはたがいにかげ離れており、異なる結果に導く。ナチケーターよ、私は汝を、知識を熱望する者と見なす。なぜなら、多くの快樂も、汝を誘惑することはできなかつたから。

≪第5節≫

【節】英語版テキスト p.54 下段。

avidyāyāmantare vartamānāḥ svayaṁ dhīrāḥ paṇḍitammanyamānāḥ ;
アヴィッディヤーヤーマンタレー ヴァルタマーナーハ スヴァヤム
ディーラーハ パンディタムマンニャマーナーハ ;
dandramyamānāḥ pariyanti mūḍhā andhenaiva nīyamānā yathāndhāḥ.
ダンドラムヤマーナーハ パリヤンティ ムーラー アンデーナイヴァ
ニーヤマーナー ヤターンダーハ

【単語】英語版テキスト p.54 下段。

- ・アヴィッディヤーヤーム アンタレー (avidyāyām : 無知 antare : 心の)
- ・ヴァルタマーナーハ (vartamānāḥ : 在る)
- ・スヴァヤム (svayam : 自分で、自発的に)
- ・ディーラーハ (dhīrāḥ : 知性が高い、知的な人)
- ・パンディタム マンニャマーナーハ (paṇḍitam manyamānāḥ : 賢いと考え
る人々) [自分自身のことを、聖典をよく理解している者だと考える人々]

- ・ダンドラムヤマーナーハ (dandramyamānāḥ : 変化するものの中で)
[変化するもの = 現世の快樂を追求している]
- ・パリヤンティ (pariyanti : ぐるぐる回る)
- ・ムーラーハ (mūḍhāḥ : 愚者) [*ḍha はダより「ラ行」に近い発音]
- ・アンデーナ (andhena : 盲目によって)
- ・エーヴァ (eva : まさに)
- ・ニーヤマーナーハ (nīyamānāḥ : 導かれる)
- ・ヤター (yathā : ~のように)
- ・アンダーハ (andhāḥ : 盲人)

【訳】英語版テキスト p.55 中段。

この世の快樂に浸りきっている人々は、聖典を勉強した人を賢人だと考える。それはまるで盲人に導かれる盲人のようだ。同じ場所をぐるぐる回り、常に悲しみにくれている。

【訳】協会出版『ウパニシャド 改訂版』p.50、6行目。

無知の深淵に沈みながら、慢心故に己を賢者と考えて、惑わされた愚者たちは流転に流転を重ねる。盲人に導かれた盲人のように。

《第6節》

【節】 英語版テキスト p.56 上段。

na sāmparāyaḥ pratibhāti bālaṁ pramādyantaṁ vittamohena mūḍham;
ナ サームパラヤハ プラティバーティ バーラム
プラマーッディヤンタム ヴィッタモーヘーナ ムーツラム ;
ayaṁ loko nāsti para iti mānī punaḥ punarvaśamāpadyate me.
アヤム ローコー ナースティ パラ イティ マーニー
プナハ プナルヴァシャマーパッディヤター メー

【単語】 英語版テキスト p.56 上段。

- ・ サームパラヤハ (sāmparāyaḥ : この世界以外に別の場所があること、別の世界に関連する義務)
- ・ プラティ (prati : ~へ) [=to]
- ・ ナ バーティ (na bhāti : 決して起きない)
- ・ バーラム (bālaṁ : 未熟な子供のように) [=immature]
- ・ プラマーッディヤンタム (pramādyantaṁ : 執着の中で楽しむこと)
[=執着によって幻惑されている]
- ・ ヴィッタモーヘーナ (vittamohena : 自分が持つ富への誇り、富への妄信)
[=富によって幻惑されている] [vittam=富]
- ・ ムーツラム (mūḍham : 無知がある人) [*ḍha はダより「ラ行」に近い発音]

- ・ アヤム ローカハ (ayaṁ lokaḥ : この知覚できる世界 [だけが存在する])
- ・ ナ アスティ (na asti : 存在しない)
- ・ パラハ (paraḥ : 別のもの) [別の世界の存在は見えない]
- ・ イティ (iti : このように)
- ・ マーニー (mānī : 考える人は誰でも)
- ・ プナハ プナハ (punaḥ punaḥ : 何度も何度も)
- ・ ヴァシャム (vaśam : コントロール、支配)
- ・ アーパッディヤター (āpadyate : [支配] 下に置かれる)
- ・ メー (me : 私の)

【訳】 英語版テキスト p.56 中段。

世俗の人の中には、家族に大変執着する人もいれば、自分の富をととても誇る人も
いる。世界は彼らをそのように魅了するが、彼ら（幻惑された無知な人々）は未
熟な子供のように、見えている世界だけが存在していると考え、別の世界の存在

を信じない。したがって別の世界に行くための準備 [みずからの義務を果たすこと] をしようとも思わない。そのような人々は、何度も何度も私（死神ヤマ）の支配下に置かれるのだ。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.50、8 行目

世俗の富という虚しいものに欺かれた、思慮のない若者には、永遠の棲家^{すみか}へと導く道は明らかにされない。「この世のみが実在する。来世などは存在しない」に落ちる。——そのように考えて、彼は再生に再生を繰り返し、何度も何度も私の牙にかかる。

《第7節》

【節】英語版テキスト p.57 下段。

śravaṇāyāpi bahubhīryo na labhyaḥ śṛṇvanto'pi bahavo yaṁ na vidyaḥ ;
シュラヴァナーヤーピ バフツビルヨー ナ ラツビヤハ
シュリンヴァントーピ バハヴァー ヤム ナ ヴィツドユフ ;
āścāryo vaktā kuśalo'sya labdhā'ścāryo jñātā kuśalānuśiṣṭaḥ.
アーシュッチャリヨー ヴァクター クシャロースヤ
ラブダーシュチャリヨー ギャーター クシャルーヌシシュタハ

【単語】英語版テキスト p.58 上段。

- ・シュラヴァナーヤ アピ (śravaṇāya api : 聞く機会さえ)
- ・バフツビヒ (bahubhiḥ : 多くの者は)
- ・ヤハ (yaḥ : それ [=真我、that Self] を) [* bahubhiḥ + yaḥ = bahubhīryo]
- ・ナ ラツビヤハ (na labhyaḥ : 与えられない)
- ・シュリンヴァンタハ アピ (śṛṇvantaḥ api : 聞いても)
- ・バハヴァハ (bahavaḥ : 多くの者は)
- ・ヤム (yaṁ : その人について)
- ・ナ ヴィツドユフ (na vidyaḥ : 理解しない)

- ・アーシュッチャリヤハ (āścāryaḥ : 特別な、稀な)
- ・ヴァクター (vaktā : 霊的な先生、真我について教える先生)
- ・クシャルハ (kuśalaḥ : 高いレベルに達した)
- ・アッスヤ ラブダー (asya labdhā : 真我を悟った人)
- ・アーシュチャリヤハ (āścāryaḥ : 特別な、稀な) [そのような弟子は稀]
- ・ギャーター (jñātā : [真我についての知識を] 得ることができる)
- ・クシャルーヌシシュタハ (kuśalānuśiṣṭaḥ : 高いレベルの特別な先生の教えを)

【訳】英語版テキスト p.58 中段。

多くの人は真我 (the Self、アートマン) について聞く機会がない。聞いたとしてもほとんどがその意味を理解しない。また真我を教えるに十分な者もごくわずかだ。真我の知識を得た人は非常に秀でている。高いレベルの特別な先生から教わった稀な者だけが真我の知識を得るのだ。

【訳】協会書籍『ウパニシャド 改訂版』p.50、11行目。

多くの者は、アートマンについて聞くことを許されない。多くの者は、それを聞いても、それを理解しない。それを語る者は驚くべきかな。それを学ぶ者は聡明なるかな。良き師に教えられて、それを理解するを得る者は幸いなるかな。

≪第8節≫

【節】英語版テキスト p.60 上段。

na nareṇāvareṇa prokta eṣa suvijñeyo bahudhā cintyamānaḥ ;
ナ ナレーナーヴァレーナ プロークタ エーシャ
スヴィッゲーヨー バフダー チンティアマーナハ ;
ananyaprokte gatiṛatra nāstyāṇīyān hyatarkyamaṇupramāṇāt.
アナンニャプロークテー ガティラットラ ナースティアニーヤーン
ヒヤタルツキヤマヌップラマーナート

【単語】英語版テキスト p.60 上段。

- ・ナ (na : ~ない) [否定辞]
- ・ナレーナ (nareṇa : 個人によって) [= by an individual]
- ・アーヴァレーナ (avareṇa : 低いレベルの) [物質主義的な心の人]
- ・プロークタハ (proktaḥ : 教えた) [過去形]
- ・エーシャハ (eṣaḥ : これ [真我])
- ・スヴィッゲーヤハ (suvijñeyaḥ : 理解が可能な)
- ・バフダー (bahudhā : いろいろな方法で)
- ・チンティアマーナハ (cintyamānaḥ : 説明できる)

- ・アナンニャ (ananya : 唯一の) [真我と離れることのない先生]
- ・プロークテー (prokte : 話す) [もしそのような先生に教わったら]
- ・ガティヒ (gatiḥ : 揺らぐ) [自分の存在についての心の揺らぎ、混乱]
- ・アットラ (atra : この) [この真我について]
- ・ナ アスティ (na asti : 存在しない)
- ・アニーヤーン (aṇīyān : より微細な)

＜ヒヤタルツキヤマヌップラマーナート

＝ヒ＋アタルツキヤム＋アヌ＋プラマーナート＞

- ・ヒ (hi : 実際のところ、なぜなら)
- ・アタルツキヤム (atarkyam : 理論・推論・論法を越えて)
[真我 (the Self) は理論・推論・論法を越えている]
- ・アヌ (aṇu : 微細な)
- ・プラマーナート (pramāṇāt : 理論・推論・論法で確立された)

【訳】英語版テキスト p.60、中段。

物質主義的な、心のレベルの低い人が、真我（the Self、アートマン）について教えるならば、真我は決して理解されない。真我について多くの思い違いがあるからだ。しかし、もし自分とブラフマンを一つに見ている先生が教えるならば、弟子の心にもはや混乱はない。そうでなければ、ある人は自分の論法で真理とはこれこれの微細なものであると主張し、別のさらに知性ある人は自分の論法で真理とはこれこれのもっと微細なものであると主張するだろう。真我はこのような方法、つまり議論や推論や論法などで、知ることはできないのだ。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.50、14 行目。

アートマンの真理は、無知なる者に教えられた時には、完全には理解されない。なぜなら、それに関する見解は、知識に基づいていなければ、一つ一つ異なるから。このアートマンは最も微細なものよりも微細であり、あらゆる論理を超えている。アートマンとブラフマンが一つであることを知る師に教えられて、人は無益な理論を捨てて真理に到達する。

《第9節》

【節】英語版テキスト p.62 上段。

naiṣā tarkeṇa matirāpaneyā proktānyenaiva sujñānāya preṣṭha ;
ナイシャー タルケーナ マティラーパネーヤー
プロクターンニエーナイヴァ スッギャーナーヤ プレーシュタ ;
yām tvamāpaḥ satyadhṛtirbatāsi tvādr̥ṅ no bhūyānnaciketah praṣṭā.
ヤーム トウヴァマーパハ サッティヤドゥリティルバターシ
トウヴァードゥリン ノー ブーヤーンナチケーターハ プラシュター

【単語】英語版テキスト p.62 中段。

- ・ナ (na : ~ない) [否定辞]
- ・エーシャー (eṣā : この)
- ・タルケーナ (tarkenā : 理論・推論によって)
- ・マティヒ (matih̥ : 知識)
- ・アーパネーヤー (āpaneyā : 理解する、得る)
- ・プロクター (proktā : [知識を] 説明した) [過去形]
- ・アンニエーナ エーヴァ (anyena eva : 別の人のみ)
[単に議論・推論をするだけでなく、聖典を学び、議論のテーマ (=真理) を
みずから体験して悟った人によってのみ]
- ・スッギャーナーヤ (sujñānāya : 簡単に理解した) [過去形]
- ・プレーシュタ (preṣṭha : おお、最愛なる人よ)

- ・ヤーム (yām : それ) [真我を深く理解していること]
- ・トウヴァム (tvam : あなたは)
- ・アーパハ (āpaḥ : 得た)

＜サッティヤドゥリティルバターシ＝

＝サッティヤ+ドリティヒ+バタ+アシ＞

- ・サッティヤ ドリティヒ (satya dhṛtiḥ : 真理の概念) [concept of the Truth]
- ・バタ アシ (bata asi : [あなたは] 授けられる)

- ・トウヴァードゥリク (tvādr̥k : あなたのような)
- ・ナハ (naḥ : 私たちに)
- ・ブーヤート (bhūyāt : もっと来てほしい、歓迎される)
- ・ナチケーターハ (naciketah̥ : おお、ナチケーター)
- ・プラシュター (praṣṭā : 求道者)

【訳】 英語版テキスト p.62 下段。

おお最愛の人よ、あなたは真我（the Self、アートマン）を見事に深く理解している。しかもそれは議論や推論によってではない。あなたは、理論に頼らずに聖典を学んでみずから真我を悟った人に教えを受け、それを得た。ナチケーターよ、あなたはまことに真我の本質を理解した。あなたのような求道者がもっとあられんことを！

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.51、3行目。

汝が既に得た悟りは、思考を通じて来るのではなく、むしろまったく賢者の唇から来るものである。愛するナチケーターよ、汝は幸いな、幸いな者である。汝は永遠なるものを求めている故に。私は汝のような弟子をもっと持ちたいものである！

《第10節》

【節】英語版テキスト p.63 下段。

jānāmyaham śevadhīṅ nityam na dhruvam tat ;
ジャーナーミヤハム シェーヴァディリッティヤニッティヤム
ナ ヒヤッドウルヴァイヒ プラーツピヤテー ヒ ドウルヴァム タット ;
tato mayā nāciketaścito'gniranityairdravyaiḥ prāptavānasmī nityam.
タトー マヤー ナーチケータシュチトーアグニアニッティヤイルドラヴィ
ヤイヒ プラープタヴァーンアスミ ニッティヤム

【単語】英語版テキスト p.64 上段。

- ・ ジャーナム (jānāmi : 知る)
- ・ アハム (aham : 私は)
- ・ シェーヴァディヒ (śevadhīḥ : 富)
[すなわち活動や働きの成果、霊的实践や儀式 (ヤッギヤー) の成果]
- ・ イティ (iti : これ) [この事実]
- ・ アニッティヤム (anityam : 一時的な)
- ・ ヒ (hi : なぜなら) [=because]
- ・ アドルヴァイヒ (adhruvaiḥ : 続かない) [一時的なものは続かない]
- ・ ナ プラーツピヤテー (na prāpyate : 得ることができない、到達できない)
- ・ ヒ (hi : それゆえ) [=therefore]
- ・ ドウルヴァム (dhruvam : 続くこと) [真我は永遠に続く]
- ・ タット (tat : それ)

- ・ タタハ (tataḥ : だから、だが) [=so] [私 (ヤマ) はそれを知っていたが]
- ・ マヤー (mayā : 私によって)
　　<ナーチケータシュチトーアグニアニッティヤイルドラヴィヤイヒ
　　= ナチケータハ + チタハ + アグニヒ + アニッティヤハ + ドラヴィヤイヒ)>
- ・ ナチケータハ (nāciketaḥ : ナチケーターの名にちなんだ)
- ・ チタハ (citaḥ : 執り行われた)
- ・ アグニヒ (agniḥ : 火) [天国へと導く火の供儀 = ナチケーター儀式]
- ・ アニッティヤハ (anityaiḥ : 一時的な、はかない、束の間の)
- ・ ドラヴィヤイヒ (dravyaiḥ : 儀式礼拝に用いられるもの)
- ・ プラープタヴァーン アスミ (prāptavān asmi : 手に入れた)
- ・ ニッティヤム (nityam : [相対的な] 永遠)
[一時的なものと比較しての相対的永遠。ここでは天国で人間の運命の権限を
持つという死神の地位にあり続けること]

【訳】 英語版テキスト p.64 中段。

富すなわちすべての仕事の成果は一時的であると私は知っている。また永遠なる真我（the Self、アートマン）はそのような一時的なものでは得られないことも知っている。それを知っていたのに、私はナチケーター儀式をおこなって死神という地位を与えられた。この地位は、相対的な意味においてのみ、永遠なのだ。

【訳】 協会出版『ウパニシャド 改訂版』 p.51、6 行目。

行動に由来する宝は永遠ではないという事を知っている。永遠のものは、永遠でないものから得ることは出来ない。しかし私は永遠でないものの力を用いてナチケータースの供儀を行い、そして永遠な地位（相対的永遠）に到達した。

《第 1 1 節》

【節】 英語版テキスト p.65 下段。

kāmasyāptim jagataḥ pratiṣṭhām kratorānantyamabhayasya pāram ;

カーマッスヤープティム ジャガタハ プラティシュターム

クラトローナンティヤムアバヤッスヤ パーラム ;

stomamahadurugāyam pratiṣṭhām drṣṭvā dhṛtyā dhīro naciketo'tyāsṛākṣiḥ.

ストーママハッドウルガーヤム プラティシュターム ドウリシュットウヴァー

ー ドウリッティヤー ディーロー ナチケートーッティアスラークシーヒ

【単語】 英語版テキスト p.65 下段。

- ・カーマッスヤ (kāmasya : 欲望の)
- ・アープティム (āptim : 限度)
- ・ジャガタハ (jagataḥ ; 世界の) [人間、動物、環境など世界のすべてのもの]
- ・プラティシュターム (pratiṣṭhām : 基礎、支え)
- ・クラトローホ (kratoḥ : 儀式により得られる結果)
- ・アーナンティヤム (ānantyam : 無限) [=ヒランニャガルバに象徴される「無限」。ヒランニャガルバとは、創造過程においてブラフマンから最初にあらわれた最高の存在。つまり、最高位の有限な存在である]
- ・アバヤッスヤ (abhayasya : 恐怖がない状態)
- ・パーラム (pāram : 一番高い) [(かすかに恐れはあるが) 最も恐れがない]

- ・ストーマ マハット (stoma-mahat : 非常に魅惑的な状態) [意のままに拡大・縮小できる、物事を起こらせることができる、などの力を持つ状態]
- ・ウルガーヤム (urugāyam : [ヒランニャガルバのように] 遍在)
- ・プラティシュターム (pratiṣṭhām : 状態)
- ・ドウリシュットウヴァー (drṣṭvā : 注意深く熟考する、識別する)
- ・ドウリッティヤー (dhṛtyā : 忍耐をもって)
- ・ディーラハ (dhīraḥ : 賢い人、思慮深い人)
- ・ナチケートハ (naciketaḥ : ナチケートー)
- ・アッティアスラークシーヒ (atiasṛākṣiḥ : 放棄した、拒絶した)

【訳】 英語版テキスト p.66 中段。

おお、ナチケートーよ、あなたは実に思慮深いので、人が最も欲しがるものを放棄することができた。あなたは世界を構成するすべてのもの(人間、動物、環境)を放棄した。あなたはナチケートー儀式によって得られる多くの魅惑的なもの、

たとえば世界の創造者・維持者・破壊者としてのヒランニャガルバの地位を放棄した。恐れが最もない状態も放棄した。超能力（意のままに拡大・縮小できる、出来事への影響を及ぼす、人々をコントロールできる等の力）も放棄した。それと同等の魅力的なものすべてを放棄した。それらは永遠のものではなくいずれなくなるものと知性をもって識別し、あなたはすべてを放棄した。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.51、9行目。

世俗の欲望が目的とするところ、すべての人々が熱望する華やかな物、人々が宗教的儀礼によって得ようと望む天界の喜び、何にも増して求められる奇跡的な力——これらすべては汝の手の届くところにあった。だが、それらすべてを、固い決心をもって、汝は放棄した。

《第 1 2 節》

【節】英語版テキスト p.67 上段。

taṁ durdarśaṁ gūḍhamanupraviṣṭaṁ guhāhitaṁ gahvareṣṭhaṁ purāṇam ;
タム ドウルダルシャム グールハム マヌップラヴィシュタム
グハーヒタム ガハヴァレーシュタム プラーナム ;
adhyātmayogādhighamena devaṁ matvā dhīro harṣaśokau jahāti.
アッディヤートマヨーガーツディガメーナ デーヴァム
マツトウヴァー ディーロー ハルシャツショーコウ ジャハーティ

【単語】英語版テキスト p.67 中段。

- ・タム (tam : そのもの、それ)
- ・ドウルダルシャム (dur : 難しい darśam : 見ること)
[認識は難しい。なぜなら精妙だから]
- ・グールハム (gūḍham : 精妙、隠れた) [*dha はダより「ラ行」に近い発音]
- ・アヌプラヴィシュタム (anupraviṣṭam : [万人の] 奥深くに)
- ・グハーヒタム (guhāhitam : 知性の奥に隠された)
- ・ガハヴァレーシュタム (gahvareṣṭham : 最奥の洞窟に)
[感覚では捉えられない最奥の場所を洞窟になぞらえている]
- ・プラーナム (purāṇam : 時を超えた、最も古い) [=timeless]

＜アッディヤートマヨーガーツディガメーナ

＝アッディヤートマ＋ヨーガ＋アッディガメーナ＞

- ・アッディヤートマ ヨーガ アッディガメーナ
(adhyātma-yoga- adhighamena : アッディヤートマ・ヨーガの実践によって)
[＝アートマンに関するヨーガ、真我は自分の中にあると考えるヨーガ]

- ・デーヴァム (devam : 真我、アートマン)
- ・マツトウヴァー (matvā : [真我を] 瞑想して)
- ・ディーラハ (dhīraḥ : 賢い人は)
- ・ハルシャ ショーコウ (harṣa-śokau : 喜びと、悲しみ苦しみ)
- ・ジャハーティ (jahāti : 放棄する、超越する)

【訳】英語版テキスト p.67 中段。

見るのが難しく、万人の内奥にあり、知性のうちに隠され、感覚器官を超えたもの、それが、時を超越した真我 (the Self、アートマン) である。内なる真我を悟った賢者は喜びも悲しみも超越する。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.51、12行目。

太古の、光り輝く存在、内在する魂、靈性の心臓の蓮華の奥深くにひそむものを知ることは難しい。しかし、賢者は瞑想の道に従って、それを知る。そして、快樂と苦痛を超越する。

《第 13 節》

【節】 英語版テキスト p.68 下段。

etacchrutvā sampariḡṛhya martyaḥ pravṛhya dharmyamaṇumetaṁāpya ;

エータッチルットウヴァー サムパリグリヒヤ マルティヤハ

プラヴリヒヤ ダルミヤマヌメータマーツピヤ ;

sa modate modanīyaṁ hi labdhvā vivṛtaṁ sadma naciketasam manye.

サ モーダテー モーダニーヤム ヒ ラブドゥヴァー

ヴィヴリタム サッドマ ナチケータサム マンニエー

【単語】 英語版テキスト p.69 上段。

- ・ エータット (etat : これ) [=ブラフマン]
- ・ シュルットウヴァー (śrutvā : [先生から] 勉強して)
- ・ サムパリグリヒヤ (sampariḡṛhya : 十分理解して)
[真我と一つになることにより、真我を十分理解する]
- ・ マルティヤハ (martyaḥ : [その] 人は)
- ・ プラヴリヒヤ (pravṛhya : 識別して)
[粗大な感覚の対象から、精妙な真我を識別して]
- ・ ダルミヤム (dharmyam : 支えている)
[宇宙を支えるダルマ (原則) に常に忠実であること]
- ・ アヌム (aṇum : 精妙なもの) [= 真我、アートマン]
- ・ エータム (etam : これ)
- ・ アーツピヤ (āpya : 手に入れる、至る)

- ・ サハ (saḥ : 彼は)
- ・ モーダテー (modate : 楽しむ)
- ・ モーダニーヤム (modanīyam : 至福の源) [= 真我、アートマン]
- ・ ヒ (hi : まことに)
- ・ ラブドゥヴァー (labdhvā : [真我に] 根付いて、確立して)
- ・ ヴィヴリタム (vivṛtam : 開いている)
- ・ サッドマ (sadma : 家の扉)
[悟りの家、至福の家、ブラフマンの家=ブラフマンの知識、ブラフマンの状態]
- ・ ナチケータサム (naciketasam : ナチケーターに)
- ・ マンニエー (manye : 考える) [私 (=死神ヤマ) は考える]

【訳】 英語版テキスト p.69 中段。

真我 (the Self、アートマン) については有能な先生から聞かなければならない。だが聞くだけでは不十分である。彼は真我に至らなければならない。真我は非常に精妙だが、それでも真我を深く理解しなければならない。真我はダルマとして宇宙を支えている。人はダルマに忠実でなければならない。人が真我を知ると、彼はそれ以上達成すべきものは何もないと感じる。彼は完全に満足し、彼は幸福で至福に満ちている。至福の源は内なる真我だからである。ナチケーターは今や、ブラフマンと融合するのにふさわしい (ブラフマンの家の扉がナチケーターに向かって開いている)、と私 (ヤマ) は思う。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.51、14 行目。

アートマンは身体からも、感覚器官からも、思考器官からも離れたものであるということを学び、真実の魂、微細な原理であるそれを完全に知った者——そのような者は、まことにそれに到達し、大いに歓喜する。彼はすべての至福の源泉と、その在り処を見出した故に。実に、ナチケーターよ、汝のために喜びの門は開かれていると、私は信じる。

《第 1 4 節》

【節】 英語版テキスト p.70 中段。

anyatra dharmādanyatrādharmādanyatrāsmātkṛtākṛtāt ;

アンニヤットラ ダルマーダンニヤットラーダルマーダンニヤットラースマー
トクリタークリタート ;

anyatra bhūtācca bhavyācca yattatpaśyasi tadvada.

アンニヤットラ ブーターツチャ バツヴィヤーツチャ

ヤッタットパツシャシ タッドヴァダ

【単語】 英語版テキスト p.70 下段。

- ・ アンニヤットラ (anyatra : ~を超越して)
- ・ ダルマート (dharmāt : 聖典が定める道徳的原則や宗教的な祭式儀式の原則)
[アンニヤットラ ダルマート = ダルマを超越して]
- ・ アダルマート (adharmāt : 不正、邪悪、罪、聖典で禁じられている行動)
[アンニヤットラ アダルマート = アダルマを超越して]
- ・ アスマート クリタ アクリタート (āsmātkṛtākṛtāt : 原因と結果)
[アンニヤットラ アスマート クリタ アクリタート = 原因と結果を
超越して]

・ アンニヤットラ ブータート チャ バツヴィヤート チャ
(anyatra bhūtāt ca bhavyāt ca : 時間を超越して)

- ・ ヤット タット (yat tat : 何でも)
- ・ パツシャシ (paśyasi : あなたが理解したもの、見たもの、経験したこと)
- ・ タット ヴァダ (tat vada : 言ってください、説明してください)

【訳】 英語版テキスト p.71 上段。

[ナチケーターは言った。私を褒める必要はありません。もし本当に私に満足し、私が学ぶのにふさわしいと思われるなら] 聖典が「しなさい」ということも、「してはならない」ということも超越し、原因も結果も超越し、過去も現在も未来も超越しているものについて、できる限り教えてください。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.52、3 行目。

[ナチケーター] 王よ、あなたに請い願います。善悪を超え、因果を超え、過去・現在・未来を超えるために、あなたが知っていることは何であれ、私に教えてください。

《第 15 節》

【節】 英語版テキスト p.71 下段。

sarve vedā yatpadamāmananti tapāṁsi sarvāṇi ca yadvadanti ;

サルヴェー ヴェーダー ヤットパダマーマナンティ

タパームシ サルヴァーニ チャ ヤッドヴァダンティ ;

yadicchanto brahmacaryam caranti tatte padam saṁgrahaṇa

bravīmyomityetat.

ヤッディッチャントー ブランマチャリヤム チャランティ

タッテー パダム サムグラヘーナ ブラヴィームヨーミッティエータット

【単語】 英語版テキスト p.71 下段。

- ・ サルヴェー (sarve : すべての)
- ・ ヴェーダーハ (vedāḥ : ヴェーダ聖典) [特にウパニシャッド]
- ・ ヤット (yat : それ)
- ・ パダム (padam : 目標、ゴール)
- ・ アーマナンティ (āmananti : 賞賛する)
- ・ タパームシ (tapāṁsi : 苦行、禁欲生活)
- ・ サルヴァーニ (sarvāṇi : すべての)
- ・ チャ (ca : ~と)
- ・ ヤット (yat : それ)
- ・ ヴァダンティ (vadanti : 話す、言う)

- ・ ヤット (yat : それ)
- ・ イッチャンタハ (icchantah : 願う、望む)
- ・ ブランマチャリヤム (brahmacaryam : 自制とくに禁欲)
[すなわち常に真我について考えている状態]
- ・ チャランティ (caranti : 行う、実践する)
- ・ タット テー パダム (tat te padam : あなたにその目標を)
- ・ サムグラヘーナ (saṁgrahaṇa : 簡潔に)
- ・ ブラヴィーム (bravīmi : 語る、説明する)
- ・ オーム イティ エータット (aum iti etat : オームとはこれであると)

【訳】 英語版テキスト p.72 上段。

[ヤマは言った] ウパニシャッドが最高だと褒める目標、苦行者だけが明らかにする目標、自制を実践する準備のできている者が勝ち取る目標、それについて簡潔に語ろう——それはオームである。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.52、6行目。

[死の王] すべてのヴェーダが言明する究極の目的、すべての苦行に潜在する目的、人々がそれを追い求めて禁欲と礼拝の生活を送る目的、それを私は簡潔に語ろう。それは、——オームである。

《第 16 節》

【節】 英語版テキスト p.73 上段。

etaddhyevākṣaram brahma etaddhyevākṣaram param ;

エータッドヒエーヴァークシャラム ブランマ

エータッドヒエーヴァークシャラム パラム ;

etaddhyevāksaram jñātvā yo yadicchati tasya tat.

エータッドヒエーヴァークシャラム ギャーットウヴァー

ヨー ヤッディッチャティ タッスヤ タット

【単語】 英語版テキスト p.73 中段。

- ・ エータット (etat : この)
- ・ ヒ (hi : 本当に)
- ・ エーヴァ (eva : それ)
- ・ アクシャラム (akṣaram : 不滅、不滅の音節、オーム)
- ・ ブランマ (brahma : ブラフマン) [=アパラ (至高ではない)・ブラフマン、属性のあるブラフマン]
- ・ エータット (etat : この)
- ・ ヒ (hi : 本当に)
- ・ エーヴァ (eva : それ)
- ・ アクシャラム (akṣaram : 不滅の文節、オーム)
- ・ パラム (param : 至高の) [=パラ (至高の)・ブラフマン]

- ・ エータット (etat : この)
- ・ ヒ (hi : 本当に)
- ・ エーヴァ (eva : それ)
- ・ アクシャラム (akṣaram : 不滅、不滅の音節、オーム)
- ・ ギャーットウヴァー (jñātvā : 知る)
- ・ ヤハ (yaḥ : 彼)
- ・ ヤット (yat : なんでも)
- ・ イッチャティ (icchati : 望み) [複数]
- ・ タッスヤ (tasya : 彼の [彼に])
- ・ タット (tat : それ)

【訳】 英語版テキスト p.73 下段

[オームとオームの礼拝を称賛してヤマは言った]このオームは属性のあるブラフマンである。このオームはまた属性がない至高のブラフマンである。オームを知る者は、望むものを何でも手に入れることができる。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.52、10 行目。

この音節はブラフマンである。この音節こそ、まことに至高のものである。それを知る者は願いを成就する。

《第 17 節》

【節】 英語版テキスト p.74 中段。

etadālabhanam śreṣṭhametadālabhanam param ;

エータッターラムバナム シュレーシュタムメータッターラムバナム
パラム ;

etadālabhanam jñātvā brahmaloke mahīyate.

エータッターラムバナム ギャーットウヴァー ブランマローケー
マヒーヤテー

【単語】 英語版テキスト p.74 中段。

- ・ エータット (etat : これ) [オーム]
- ・ アーラムバナム (ālabhanam : [属性のあるブラフマンへの] 道)
- ・ シュレーシュタム (śreṣṭham : 最高の)
- ・ エータット アーラムバナム パラム (etat ālabhanam param : [属性のない至高のブラフマンへの] 道)

- ・ エータット アーラムバナム ギャーットウヴァー (etat ālabhanam jñātvā : この道を知ると)
- ・ ブランマローケー (brahmaloke : ブラフマローカで) [＝ブラフマンの本性を理解して。ブラフマローカの直訳はブラフマンの世界]
- ・ マヒーヤテー (mahīyate : 繁栄)

【訳】 英語版テキスト p.74 下段

オーム (=オームの実践。すなわちオームを唱え、瞑想し、オームの本性を知る道) は、ブラフマンへと至る最高の道だ。それは属性のあるブラフマン (アパラ・ブラフマン) へと至る道でもあり、属性のないブラフマン (パラ・ブラフマン) へと至る道でもある。前者はあなたをブラフマローカへと導き、そこであなたはブラフマーと同じ状態を楽しむ。後者はあなたをブラフマンとの合一へと導く。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.52、12 行目。

それは最も強力な支柱である。それは最高の象徴である。それを知る者は、ブラフマンを知る者として尊敬される。

《第 18 節》

【節】 英語版テキスト p.75 下段。

na jāyate mriyate vā vipaścinnāyaṁ kutaścinna babhūva kaścit ;
ナ ジャーヤテー ムリヤテー ヴァー ヴィパシュチンナーヤム
クタシュチンナ バブーヴァ カシュチット ;
ajo nityaḥ śāsvato'yaṁ purāṇo na hanyate hanyamāne śarīre.
アジョー ニッティヤハ シャーツシュヴァターヤム プラーノー
ナ ハンニヤテー ハンニヤマーネー シャリーレー

【単語】 英語版テキスト p.75 下段。

- ・ ナ ジャーヤテー ムリヤテー (na jāyate mriyate :
生まれもしない、死にもしない) [na は否定辞]
- ・ ヴァー (vā : どちらも)
- ・ ヴィパシュチット (vipaścit : 意識) [真我、アートマン]
- ・ アヤム (ayam : この真我)
- ・ クタシュチット (kutaścit : 他のものから)
- ・ ナ バブーヴァ (na babhūva : 生じない)
- ・ ナ バブーヴァ カシュチット (na babhūva kaścit : それから生まれた
ものは何もない)

- ・ アジャハ (ajaḥ : 生まれない、誕生がない) [=without birth]
- ・ ニッティヤハ (nityaḥ : 永遠の)
- ・ シャーツシュヴァタハ (śāsvataḥ : 不変の)
- ・ アヤム (ayam : この) [この真我は]
- ・ プラーナハ (purāṇaḥ : 常に存在している)
- ・ ナ ハンニヤテー (na hanyate : なくなる)
- ・ ハンニヤマーネー シャリーレー (hanyamāne śarīre : 体がなくなっても)

【訳】 英語版テキスト p.76 上段。

真我 (the Self、アートマン) は生まれもせず、死にもしない。真我は何かから生まれることもなく、何かを生むこともない。真我には誕生がなく、真我は永遠、不変で、常に存在する。体が滅びても、真我は決して滅びない。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.53、1 行目。

オームによって象徴されるアートマンは、全能の主である。それは生まれず、死
ない。それは結果でもなく、原因でもない。この太古の一者は、不生、永遠、不
滅である。たとえ身体が破壊されても、それは殺されない。

《第 19 節》

【節】 英語版テキスト p.77 中段。

hantā cenmanyate hantum hataścenmanyate hatam ;

ハンター チェーンマンニャター ハントウム

ハタシュチェーンマンニャター ハタム ;

ubhau tau na vijānīto nāyam hanti na hanyate.

ウバウ タウ ナ ヴィジャーニートー

ナーヤム ハンティ ナ ハンニャター

【単語】 英語版テキスト p.77 下段。

- ・ハンター (hantā : 殺人者が)
- ・チェート (cet : もし)
- ・マンニャター (manyate : 考える)
- ・ハントウム (hantum : 殺そうと)
- ・ハタハ (hataḥ : 殺された人が)
- ・チェート (cet : もし)
- ・マンニャター ハタム : [彼の真我を] 殺されたと考えるなら)

- ・ウバウ タウ (ubhau tau : それら両方)
- ・ナ ヴィジャーニータハ (na vijānītaḥ : 知らない) [na は否定辞]
- ・ナ アヤム ハンティ (na ayam hanti : この真我は殺さない)
- ・ナ ハンニャター (na hanyate : 殺されもしない)

【訳】 英語版テキスト p.77 下段。

殺人者が誰かを殺そうと考える場合も、殺された者が「私は殺された」と考える場合も、どちらの場合も、真我 (the Self、アートマン) は殺すことも殺されることもない、ということを知らない。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.53、4 行目。

もし、殺人者が『私が殺した』と思い、殺された者が『私は殺された』と考えるのであれば、どちらも真実を知らない。アートマンは殺すことなく、殺されることもない。

《第20節》

【節】 英語版テキスト p.78 下段。

aṇoraṇīyānmahato mahīyānātmā'sya jantornihito guhāyām ;
アノーラニーヤーンマハトー マヒーヤーンナートマーツシャ
ジャントールニヒトー グハーヤーム ;
tamakratuḥ paśyati vītaśoko dhātuprasādānmahimānamātmanah.
タマックラトウフ パツシャティ ヴィータショーコー
ダートウプラサーダーンマヒマーナマートマナハ

【単語】 英語版テキスト p.78 下段。

- ・ アノーホ (aṇoḥ : 小さい、微小な)
- ・ アニーヤーン (aṇīyān : より小さい) [最小より小さい]
- ・ マハタハ (mahataḥ : 大きい)
- ・ マヒーヤン (mahīyān : より大きい) [最大より大きい]
- ・ アートマー (ātmā : アートマン、真我)
- ・ アツシャ ジャントーホ (asya jantoḥ : [ブラフマンから草の芽に至るまでの] 存在の)
- ・ ニヒタハ グハーヤーム (nihitaḥ guhāyām : ハートの奥に横たわる)
[*ハートを洞窟 (guhā) になぞらえている]

- ・ タム (tam : それ)
- ・ アックラトウフ (akratuḥ : すべての欲望を放棄した)
- ・ パツシャティ (paśyati : 経験)
- ・ ヴィータ ショーカハ (vīta-śokaḥ : すべての恐れ・心配から解放された)
- ・ ダートウ プラサーダート (dhātu-prasādāt :
心や感覚器官を完全にコントロールすることで)
- ・ マヒマーナム (mahimānam : 偉大さ)
- ・ アートマナハ (ātmanah : アートマンの、真我の)

【訳】 英語版テキスト p.79 上段。

真我 (the Self、アートマン) は最小よりも小さく、最大よりも大きい。それは万人のハートの深奥に (それ自身の Self として) ある。欲望をすべて放棄して、心とその他の感覚器官を完全にコントロールした者は、真我の偉大さの中で、すべての恐れや心配から解放される。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.53、6 行目。

極小のものより小さく、極大のものよりも大きいこのアートマンは、すべてのものの靈性の心臓の中に、永遠に住む。人が欲望から自由になり、彼の思考器官と感覚器官とが浄化されたとき、彼はアートマンの栄光を見て、悲しみを捨てる。

《第 2 1 節》

【節】 英語版テキスト p.80 下段。

āsīno dūram vrajati śayāno yāti sarvataḥ ;

アーシーノー ドウーラム ヴラジャティ シャヤーノー ヤーティ
サルヴァタハ ;

kastam madāmadam devam madanyo jñātumarhati.

カスタム マダーマダム デーヴァム マダンニオー ギャートウマルハティ

【単語】 英語版テキスト p.80 下段。

- ・ アーシーナハ (āsīnaḥ : [真我は] 座る) [動かない、motionless]
 - ・ ドウーラム (dūram : 広範囲に) [= far and wide]
 - ・ ヴラジャティ (vrajati : 旅することができる)
 - ・ シャヤーナハ (śayānaḥ : 横たわる)
 - ・ ヤーティ (yāti : 行くことができる)
 - ・ サルヴァタハ (sarvataḥ : いたる所で)
-
- ・ タム マダ アマダム デーヴァム (tam mada-amadam devam : 歓喜であり、歓喜でない真我を)
 - ・ マット アンニヤハ カハ (mat anyah kaḥ : 私のほかに誰が)
 - ・ ギャートウム アルハティ (jñātum arhati : 知る能力がある)

【訳】 英語版テキスト p.80 下段。

真我 (the Self、アートマン) は動かないが、広範囲に旅する——それは、非活動でありながら、最も活動的である。真我は歓喜であり、歓喜なきものでもある。私のような者以外に誰がそのことを理解できるだろうか？

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.53、9 行目。

坐していながら、それは遠くへ旅し、休んでいながら、それはすべてのものを動かす。清浄な者のうちで最も清浄な者のみが、歓喜であり歓喜を超えたものである、この光り輝く存在を、その存在を知っている自己以外悟ることができるのか？

《第 2 2 節》

【節】 英語版テキスト p.82 下段。

aśarīram śarīreṣvanavastheṣvavasthitam ;

アシャリーラム シャリーレーシュヴァナヴァステーシュヴァヴァスティタム ;

mahāntam vibhumātmānam matvā dhīro na śocati.

マハーンタム ヴィブマートマーナム マットウヴァー ディーローナ ショーチャティ

【単語】 英語版テキスト p.82 下段。

- ・ アシャリーラム (aśarīram : 形がない)
- ・ シャリーレーシュ (śarīreṣu : すべての形の中で)
- ・ アナヴァステーシュ (anavastheṣu : 一時的なものの中で)
- ・ アヴァスティタム (avasthitam : 永遠の存在)

- ・ マハーンタム (mahāntam : 大きい)
- ・ ヴィブム (vibhum : すべてに浸透している)
- ・ アートマーナム (ātmānam : その人の真我)
- ・ マットウヴァー (matvā : 考えている)
- ・ ディーラハ (dhīraḥ : 賢い人) [=真我を知る人]
- ・ ナ ショーチャティ (na śocati : 決して悲しむ理由を与えない)
[悲しむという感情が起きない]

【訳】 英語版テキスト p.83 下段。

形あるすべてのものの中に存在するが、それ自体に形はない。一時的なものの中にあつて、唯一の永遠なる実在——それが真我 (the Self、アートマン) である。真我は偉大ですべてに遍満する。賢い人は、みずからを真我であると考え、悲しみを超越する。

【訳】 協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.53、12 行目。

形の中に宿っているが、それは形なきものである。無常なるもののただ中に、それは永遠に住む。アートマンはすべてに遍満し、至高である。アートマンの本質を知って、賢者はあらゆる苦しみを超える。

《第23節》

【節】英語版テキスト p.84 上段。

nāyamātmā pravacanena labhyo na medhayā na bahunā śrutena ;
ナーヤマートマー プラヴァチャネーナ ラッビヨー
ナ メーダヤー ナ バフナー シュルッテーナ ;
yamevaiṣa vṛṇute tena labhyastasyaiṣa ātmā vivṛṇute tanūm svām.
ヤメーヴァイシャ ヴリヌテー テーナ ラッビヤスタッスヤイシャ
アートマー ヴィヴリヌテー タヌーム スヴァーム

【単語】英語版テキスト p.84 中段。

- ・アヤム アートマー (ayam ātmā : このアートマン、この真我)
- ・プラヴァチャネーナ (pravacanena : 学問によって)
- ・ナ ラッビヤハ (na labhyaḥ : 得られない) [na は否定辞]
- ・ナ メーダヤー (na medhayā : 知性によっても [得られ] ない)
- ・ナ バフナー シュルッテーナ (na bahunā śrutena : [ヴェーダ聖典から] それについてたくさん聞いても [得られ] ない)

- ・ヤム エーヴァ (yam eva : 誰でも)
- ・エーシャハ ヴリヌテー (eṣaḥ vṛṇute : この [真我が] 受け入れる)
- ・テーナ ラッビヤハ (tena labhyaḥ : 彼によって得られる)
- ・タッスヤ (tasya : 彼に)
- ・エーシャハ アートマー (eṣaḥ ātmā : このアートマンは、この真我は)
- ・ヴィヴリヌテー (vivṛṇute : 明らかにする)
- ・タヌーム スヴァーム (tanūm svām : それ自身の本性を)

【訳】英語版テキスト p.84 下段。

この真我 (the Self、アートマン) は、学問によっても、知性の力によっても、さまざまなものからそのことについて聞いても、理解はできない。それは真我が選んだ者にだけ、その本性を明らかにするのだ。

【訳】協会書籍『ウパニシャド 改訂版』p.53、15行目。

アートマンは、聖典の学習によっても、知性の鋭敏さによっても、学問の深さによっても知られない。しかし、アートマンの恩寵によってのみ知られる [*]。まことに、彼だけに、アートマンは自身の本性を明らかにする。

[*協会書籍 注1より: この文章に関しては、恩寵の神秘を伴う他の解釈も存在する。つまり、「アートマンが選んだ者のみが、アートマンに到達する」という解釈である]

《第24節》

【節】英語版テキスト p.85 中段。

nāvirato duścāritānnāsānto nāsamāhitaḥ ;

ナーヴィラトー ドウシュチャリターンナーシャーントー

ナーサマーヒタハ ;

nāsāntamānaso vā'pi prajñānenainamāpnuyāt.

ナーシャーントマーナソー ヴァーピ プラッギャーネーナイナマープヌヤート

【単語】英語版テキスト p.85 下段。

- ・アヴィラタハ ドウシュチャリタート (avirataḥ duścāritāt : 不正を続ける者)
- ・ナ アシャーントハ (na aśāntaḥ : 心が感覚の喜びに翻ろうされる者)
[na は否定辞]
- ・ナ アサマーヒタハ (na asamāhitaḥ : 心が落ち着かない者)
- ・ナ アシャーント マーナサハ (na aśānta-mānasaḥ : 心が行為の結果を常に追い求める者)
- ・ヴァー (vā : また)
- ・アピ (api : ~も) [= neither]
- ・プラッギャーネーナ (prajñānena : 知識によってのみ)
- ・エーナム アープヌヤート (enam āpnuyāt : これ [真我] 得ることができる)

【訳】英語版テキスト p.85 下段。

不正行為を行う者は真我を悟ることができない。感覚の喜びに翻ろうされるために心が落ち着かない者、心のコントロールができない者、また行為の結果を常に望む者も、同じ運命をたどる。真我 (the Self、アートマン) は唯一、知識によって得ることができる。

【訳】協会書籍『ウパニシャド 改訂版』p.54、3行目。

もし、人が悪を断念することなく、感覚器官を統御することなく、心を静めることなく、瞑想を実践することがなくとも、それは実在の知識をとおしてのみ、認識される。

《第25節》

【節】英語版テキスト p.86 下段。

yasya brahma ca kṣatram ca ubhe bhavata odanaḥ ;

ヤッスヤ ブランマ チャ クシャトラム チャ ウベー バヴァタ
オーダナハ ;

mṛtyuryasyopasecanam ka itthā veda yatra saḥ.

ムリッティユルヤッスヨーパセーチャナム カ イットハー ヴェーダ
ヤットラ サハ

【単語】英語版テキスト p.87 上段。

- ・ヤッスヤ ブランマ チャ クシャトラム チャ
(yasya brahma ca kṣatram ca : ブラーミンとクシャトリヤは、それ [真我]
にとって)
- ・チャ (ca : ~と)
- ・ウベー (ubhe : どちらも)
- ・バヴァタハ オーダナ (bhavataḥ odanaḥ : 食べ物のような)
- ・ムリッティユフ ヤッスヤ (mṛtyuḥ ryasya : それに対して「死」(Death)
は)
- ・ウパセーチャナム (upasecanam : 薬味^{やくみ})
- ・カハ (kaḥ : [死ぬ運命にあると考える普通の] 人) [= ordinary mortal]
- ・イットハー (itthā : このように) [真我に完全に満足している人のように]
- ・ヴェーダ (veda : 知ることができる)
- ・ヤットラ サハ (yatra saḥ : それがどこであろうと)

【訳】英語版テキスト p.87 中段。

ブラーミンとクシャトリヤは人々の中で最高であるが、真我 (the Self、アートルマン) にとっては彼らさえ食べ物のようなものである。「死」は人々を圧倒するが、真我にとっては「死」さえ単なる薬味のようなものである。真我は至高である。自己修練をせず、自分は死ぬ運命にあると考える一般的な人々が、偉大な真我に到達することはない (真我に到達した人がなしえたような完全な満足を得ることはない)。

【訳】協会書籍『ウパニシャド 改訂版』 p.54、5 行目。

彼にとって、ブラーミンとクシャトリヤは食物でしかなく、死それ自体は薬味である。